

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	イオンモール座間2期 シネマ棟新築工事	階数	地上2F
建設地	座間市広野台2-4,958の1の一部	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	1,530 人
地域区分	6地域	年間使用時間	5,475 時間/年(想定値)
建物用途	集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年3月 予定	評価の実施日	2019年2月7日
敷地面積	12,309 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社大林組一級建築士事務所
建築面積	3,740 m <sup>2</sup>	確認日	2019年2月7日
延床面積	4,288 m <sup>2</sup>	確認者	株式会社大林組一級建築士事務所



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.5**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Q のスコア = 3.4

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.7

**LR 環境負荷低減性** LR のスコア = 3.4

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.1

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.6

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b>		<b>その他</b>
高効率な設備機器の導入、リサイクル材・節水型器具の採用等により、環境負荷の低減に配慮した建物である。また、外構緑化を積極的に行い、生物資源の創出や温熱環境負荷の向上に配慮している。		-
<b>Q1 室内環境</b>	<b>Q2 サービス性能</b>	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>
・シネマ内は吸音材を使用し、音環境に配慮している。 ・全館禁煙、換気量の30m <sup>3</sup> /h確保等、室内空気質を良好に保つための配慮をしている。	・維持管理のしやすさに配慮した内装・外装設計をしている。 ・耐用年数の長い材料を採用し、建物の耐用性の向上に配慮している。	・積極的な外構緑化や緑の質の確保等により、生物環境の保全・創出に配慮している。 ・周辺のまちなみに配慮した景観計画としている。
<b>LR1 エネルギー</b>	<b>LR2 資源・マテリアル</b>	<b>LR3 敷地外環境</b>
・断熱性の高い建材を採用し、建物の熱負荷抑制に配慮している。	・節水型機器の採用により、水資源保護に配慮している。 ・GWP値の低い断熱材を使用し、フロン使用を回避している。	・オール電化として、大気汚染防止に配慮している。 ・駐車場の確保や出入りのしやすい駐車場計画により、交通渋滞緩和に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される